

2022年度 博士前期・後期課程

筑波大学大学院

人間総合科学学術院

人間総合科学研究群

看護科学学位プログラム

<https://www.md.tsukuba.ac.jp/kango-kagaku/>



筑波大学は、研究利便性の高い筑波研究学園都市に位置し、  
国際レベルの教育・研究の拠点となることを目指しています。  
人間総合科学学術院は、人間の生物身体的・教育福祉的・  
精神文化的の3側面を視野に入れながら、人間に關わる総合  
科学の確立を目標に、人間に關する多面的知識を基礎にして、  
優れた先端的研究やユニークな学際的研究ができる能力を  
備えた研究者の育成、と同時に人間の諸問題に現実的かつ  
柔軟に対処できる能力を有する高度専門職業人の育成を、  
めざしています。

# 教育研究上の理念・目的

わが国の保健・医療・福祉は、医療技術の進歩・少子高齢化・生活水準の向上などによる急速な環境の変化により、高度化・専門化してきています。これに伴って、看護では、科学的根拠に基づいた的確な判断力・高度な知識ならびに技術を有する専門職業人を育成し、保健・医療・福祉の一翼を担うことが求められています。



## 看護科学学位プログラム (M)

### ■人材養成目的

少子高齢化が進むわが国では、複数の疾病や障がいを抱える患者の、長期にわたる複雑な健康問題によって医療の需要が増大かつ多様化している。本学位プログラムは、看護科学における科学的根拠に基づいてこのような課題の解決に貢献できるような、幅広く深い学識をもつ研究者等の養成の一段階であるとともに、専門看護師や助産師などの高度専門職業人を養成する。

### ■求める人材

看護科学に関する基礎的な素養を備えており、確かな倫理観と科学的根拠に基づいて国際水準の看護を探究する意欲をもち、修了後に、看護の指導的な役割を担う教育者、研究者、専門看護師、助産師を目指す人材を求める。

## 看護科学学位プログラム (D)

### ■人材養成目的

さまざまな文化的背景を持つ人々の多様な医療ニーズに創造力をもって科学的にかつ柔軟に応えることが可能な医療の専門家が求められている。本学位プログラムでは、学際的および国際的な視点に基づき、看護学の高度専門職者、教育者、研究者、政策・行政分野の看護・医療の専門家として専門的知識、技術を有するに留まらず、常に研究マインドを持って看護実践を検証していくことのできる人材を養成する。さらに、看護の専門領域だけではなく、「学際性」と「科学性」に基づく新しい看護の技術や教育・研究方法を開発できる人材を養成する。

### ■求める人材

博士前期課程や修士課程で養った看護実践能力や研究能力を活かし、新たな知識の創造をとおして看護科学の知識体系に寄与する意欲を持つ人材を求める。さらに、学際的および国際的な視点に基づき、実践と理論の架け橋となるための研究者、教育者、高度専門職者を目指す人材を求める。

# 看護科学学位プログラム(M)

研究グループ	教員名		研究内容
看護理工学・ ウィメンズヘルス看護学 (助産師養成)	岡山 久代	教 授	看護理工学、ウィメンズヘルス看護学、周産期のメンタルヘルス、 子どもと家族の健康支援
	金澤 悠喜	助 教	助産学、夫婦関係、看護理工学、新生児看護
がん看護学・緩和ケア	水野 道代	教 授	がん看護、緩和ケア、QOL
	山下 美智代	助 教	がん看護、臨床看護、看護学教育
国際発達ケア・ 発達支援看護学	安梅 勅江	教 授	国際発達ケア、エンパワメント科学
	涌水 理恵	准教授	発達支援看護、家族看護、小児看護、ケアトランジション、 ファミリーエンパワメント
地域健康・ 公衆衛生看護学	山海 知子	教 授	公衆衛生学、生活習慣病の疫学、産業保健
	大宮 朋子	准教授	公衆衛生看護学（地域看護学）、学校保健、産業保健、健康社会学
	菅谷 智一	助 教	精神科看護、児童・思春期精神科看護、活動集団療法
国際看護学	竹熊 カツマタ 麻子	教 授	国際看護、看護倫理、看護管理およびリーダーシップに関する研究
	TOGOOBAATAR Ganchimeg	助 教	Maternal and child health, Quality of care, International health, Respectful maternity care
	福澤 利江子	助 教	周産期ケアの国際比較、ドゥーラサポート
療養調整看護学	日高 紀久江	教 授	リハビリテーション看護、重度脳損傷者の看護、基礎看護学
	柴山 大賀	准教授	慢性看護全般、量的研究
	阿部 吉樹	助 教	神経筋疾患患者の看護、慢性痛、産業保健・産業看護
	工藤 理恵	助 教	糖尿病患者の口腔管理支援、自己管理支援

## 看護科学学位プログラム(D)

領域	教員名		研究内容
看 護 科 学	安梅 勅江	教 授	国際発達ケア、エンパワメント科学、発達支援看護学、家族看護学に関する研究
	岡山 久代	教 授	看護理工学、ウィメンズヘルス看護学、周産期のメンタルヘルス、子どもと家族の健康支援
	竹熊 カツマタ 麻子	教 授	国際看護、看護倫理、看護管理およびリーダーシップに関する研究
	山海 知子	教 授	公衆衛生学、公衆衛生看護学、疫学、産業保健、学校保健に関する研究
	日高 紀久江	教 授	リハビリテーション看護学、慢性看護学に関する研究
	水野 道代	教 授	がん看護・緩和ケア・QOLに関する研究



# 看護科学学位プログラム(M)

■ 取得学位:修士(看護科学)

■ 修了要件: 2年以上在学し、指定された授業科目を含む30単位以上を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格する。

専門基礎科目	看護科学論, 看護学研究法, 保健統計学, 国際看護学, 看護教育学, 地域母子保健論, 生殖生命倫理学, 周産期のフィジカルアセスメント, リクロダクティブ・ヘルス支援論, リクロダクティブ・ステージの精神保健学
専門科目	国際保健・地域看護学持論, 国際保健・地域看護学演習Ⅰ, 国際保健・地域看護学演習Ⅱ  臨床実践看護学持論, 臨床実践看護学演習Ⅰ, 臨床実践看護学演習Ⅱ  ウィメンズヘルス看護学特論, ウィメンズヘルス看護学演習Ⅰ, ウィメンズヘルス看護学演習Ⅱ, ウィメンズヘルス看護学演習Ⅲ, ウィメンズヘルス看護学演習Ⅳ, 助産学特論Ⅰ, 助産学演習Ⅰ, 助産学特論Ⅱ, 助産学演習Ⅱ, 助産学特論Ⅲ, 助産学演習Ⅲ, 助産学実習Ⅰ, 助産学実習Ⅱ, 助産学支援論  家族看護学特論, 家族看護学演習, 発達支援看護学特論, 養育期家族援助学
共通科目	インターンシップ, 看護科学特別実習, 看護科学特別研究
自由科目	国際看護研究演習, 国際看護実践演習

■ 助産師課程養成プログラムは指定された科目を履修する必要があります。

■ 科目は変更になる場合があります。

# 看護科学学位プログラム(D)

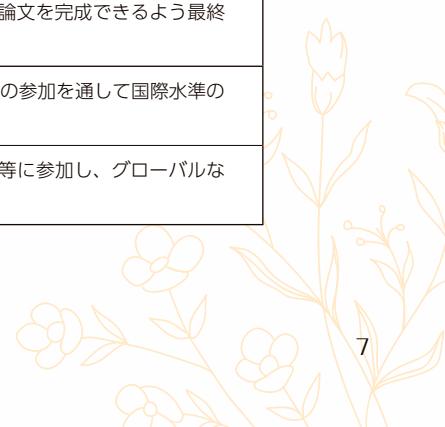
■ 取得学位：博士（看護科学）

■ 修了要件：3年以上在学し、指定された履修方法により25単位を履修し、研究計画書の審査、博士論文の審査及び最終試験に合格する。

専門基礎科目	応用看護科学	看護理論の背景にある哲学を踏まえ、看護理論の開発と検証、分析と評価の方法、また概念開発と分析の方法、さらに研究への理論の活用と研究からの理論構築の方法について、課題やディスカッションを通して理解を深め、今後の看護科学の発展への課題について科学的に探究する。
	応用統計学	統計学の基礎の理解に基づき、看護科学研究、特に量的研究に用いられる多変量解析法を理解するため、各自の研究分野における学術論文に関するクリティックを通して学習する。全20会で構成し、うち前半10回は前期課程「保健統計学」と合同で行う。講義の前半10回を統計基礎として、推測統計学の基礎を学び、後半10回においては、量的研究の進め方の講義や各自の研究分野の紹介と最近の動向並びに当該分野における代表的な量的研究論文をクリティックをプレゼンテーションし、統計的方法論の理解と研究への展開を考察する。
	看護研究方法論	講義と討議により、自立した研究者として看護科学の実践研究を企画・実施・評価するための研究方法論を教授する。
	看護学教育	看護教育に必要な教授・学生理論と看護教育における教育方法について講義や討議、演習を通して学ぶ。具体的には、看護教育課程の特徴と変遷、カリキュラムの構築、教育観・教材観・学習者観の理論に基づく授業設計の方法、内的動機付け理論、問題解決学習理論、成人学習理論、目標達成理論などの教授一学習理論について講義を行う。また、授業の後半には実習指導案を作成するとともに、受講生によるプレゼンテーション討議を実施する。
専門科目	看護科学特論	今後の看護科学の発展に向け、独創的で創造的な研究課題に取り組むために必要な知識と研究技法の実際について、看護科学のさまざまな専門分野の視点から教授する。
	研究倫理学演習	看護研究者として必要な研究倫理に関する基礎的な知識、研究を推進するための研究の倫理的な配慮について、e-learning教材(e-APRIN)と討議により具体的な事例を通して学び、実践力を習得する。
	看護科学演習Ⅰ	看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自が設定した研究課題について国内外の論文を検討し、系統的・論理的に研究目的と研究方法を立案・発表し、建設的に討議をすることで論文作成の技術を探求させる。
	看護科学演習Ⅱ	演習により、看護科学発展のためのリーダーシップ能力や自立して研究活動や論文作成ができる能力を養うために、各自の研究課題の独創性や新奇性について、根拠をもって発表し、建設的に討議をおこなうことで、研究遂行能力を探求させる。自らの研究課題を設定し、研究概念枠組みを組み立て、作成した研究計画書にそって研究を進める上での課題等を明確にして改善し、科学的根拠に基づく独創性の高い論文を作成することができることを目標とする。授業計画としては、大学院生各自が自らの研究計画書に沿って進めている研究状況を発表し、他の大学院生や教員との討議を通して、自らの研究上の課題、改善点を明確にする回と、討議で指摘された問題的等に関する改善方法を基に、修正した自らの研究について発表・討議する回(状況に応じて2回目以降は適宜追加)で構成する。
自由科目	看護科学研究	研究指導教員によって演習形式で、3年次に開講する。院生が、研究計画書審査の結果をふまえ、看護科学に関する特定の研究課題について自立した研究活動を行い、科学的根拠に基づいた創造性・独創性の高い博士論文を完成できるよう最終指導にあたる。
	国際看護研究応用演習	国際学術集会で研究発表を行うとともに、学術集会への参加を通して国際水準の看護研究を把握し、自己の研究活動に応用する。
	国際看護実践応用演習	海外の看護に関連する機関での5日間以上の海外研修等に参加し、グローバルな視点で看護の実践と課題について理解を深める。

■ 地域基盤型高度看護実践看護師養成プログラムを開講しています。

■ 科目は変更になる場合があります。



# Graduate School of Comprehensive Human Sciences Master's Program in Nursing Science (M)

## Admission Policy

### 1) Academic goals

The academic goals of the Master's program in nursing science are to 1) foster researchers who can scientifically analyze nursing practice through interdisciplinary and international perspectives, and who possess a diligent attitude as researchers, to 2) prepare students to utilize highly specialized knowledge and skills in nursing in a practical fashion, and to 3) prepare students to utilize the basic skills required for educators who support education in the nursing science.

### 2) Applicants expected

An applicant expected is one who strives to become a nursing professional who possesses highly specialized knowledge and skills in nursing, which are practical and supported by scientific evidence; and who strives to become an educator/researcher who takes a leader role in nursing practice.

### 3) Basic policy for entrance examinations

Academic performance and personality will be evaluated based on written and oral (interview-style) tests in the field of your specialty (nursing) and English. Special entrance examinations will be used to select adult students (e.g., those who have a job).

### 4) Schedule of entrance examinations

Students entering the Master's program in April in the next academic year are required to take the entrance tests in August.



# Master's program in Nursing Science (M)

Research Group	Faculty	Research
Nursing Science and Engineering, Women's Health Nursing	OKAYAMA Hisayo	Nursing Science and Engineering, Women's Health Nursing, Mental Health of a Maternal Period, Health Care for Family and Children
	KANAZAWA Yuki	Midwifery, Partnership of Married Couples, Nursing Science and Engineering, Neonatal Care
Oncology Nursing	MIZUNO Michiyo	Cancer Nursing, Palliative Care, Quality of Life
	YAMASHITA Michiyo	Cancer Nursing, Clinical Nursing, Nursing Education
International Community Care and Lifespan Development	ANME Tokie	International Community Care and Lifespan Development: Empowerment Sciences
	WAKIMIZU Rie	Child Health Care Nursing, Family Health Nursing, Development Nursing, Pediatric Nursing, Care Transition, Family Empowerment
Community Health and Public Health Nursing	SANKAI Tomoko	Public health, Population-based epidemiological study on life-style related diseases, Preventive medicine, Occupational health
	OMIYA Tomoko	Community & public health nursing, School health, Occupational health, Health sociology and positive health.
	SUGAYA Tomokazu	Psychiatric Nursing, Child and Adolescent psychiatric nursing, Activity Group Therapy
Global Health Nursing	KATSUMATA Asako Takekuma	Global health nursing, Primary Health Care, Nursing ethics, Safety and quality of care, Leadership/administration in nursing
	TOGOOBAATAR Ganchimeg	Maternal and child health, Quality of care, International health, Respectful maternity care
	FUKUZAWA Rieko	Cross-national comparison of women's perinatal experiences, Doula support
Nursing of Restoration of Health	HIDAKA Kikue	Rehabilitation Nursing, Care for severe brain injury patients, Fundamental Nursing
	SHIBAYAMA Taiga	Chronic illness care, Quantitative methods
	ABE Yoshiki	Care for patients with neuromuscular disease, Chronic pain, Occupational health nursing
	KUDO Rie	Oral care support for patients with diabetes, Self-management support

# Doctoral Program in Nursing Science (D)

## Admission Policy

### 1) Academic goals

The academic goal of the Doctoral Program in Nursing Science is to foster world-class leaders in the fields of clinical practice, management, education, research and administration who not only possess specialized knowledge and skills in nursing, but also have the ability to verify nursing practice using a highly studious mind, and also have the ability to develop new skills in nursing and new methods of education and research based not only on specialized area in nursing, but also on interdisciplinary and scientific perspectives.

### 2) Applicants expected

Applicants expected are: students who seek to obtain skills for systemizing methods of education and research, which are the basis of creation of new knowledge and technical development for the next generation, by utilizing the abilities of nursing practice and research, which was developed in the Master program; as well as students who aim at becoming educators, researchers, nurses and managers in skilled clinical nursing as a bridge between practice and theory.

### 3 ) Basic policy for entrance examinations

Applicants' qualities and abilities to study in the Doctoral Program in Nursing Science will be evaluated based on examinations as well as submitted documents, written and oral tests of knowledge on English and nursing science.

### 4) Schedule of entrance examinations

Students entering the Doctor's program in April in the next academic year are required to take the entrance tests in August.

## Objectives of student development

The academic goal of the Doctoral Program in Nursing Science is to foster world-class leaders in the fields of clinical practice, management, education, research and administration who not only possess specialized knowledge and skills in nursing, but also have the ability to verify nursing practice using a highly studious mind, and also have the ability to develop new skills in nursing and new methods of education and research based not only on specialized area in nursing, but also on interdisciplinary and scientific perspectives.



# Doctoral Programs in Nursing Science (D)

Research Area	Faculty	Detailed Description of Research Field
Nursing Science	ANME Tokie	International Community Care and Lifespan Development: Empowerment Sciences, Child Health Nursing, Development Support, Family Nursing
	OKAYAMA Hisayo	Nursing Science and Engineering, Women's Health Nursing, Mental Health of a Maternal Period, Health Care for Family and Children
	KATSUMATA Asako Takekuma	Global health nursing, Nursing ethics, Leadership/administration in nursing
	SANKAI Tomoko	Public health, Public health nursing, Epidemiology, Occupational health, School health
	HIDAKA Kikue	Rehabilitation Nursing, Chronic illness care
	MIZUNO Michiyo	Cancer Nursing, Palliative Care, Quality of Life

1-1-1 Tennodai

Tsukuba-City, Ibaraki 305-8575 JAPAN

**Phone & Fax :** +81-29-853-3403 (Office of Nursing Science)

**e-mail :** kannojimu@md.tsukuba.ac.jp

Nursing Science, Graduate School of Comprehensive Human Sciences,  
University of Tsukuba



## ACCESS

### 利用

上野から約1時間、ひたち野うしく、荒川沖または土浦で下車、各駅から「筑波大学中央」行バスで約30分(「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車)

### つくばエクスプレス利用

秋葉原駅から快速で約45分、つくば駅で下車、つくばセンター1番のりばで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分(「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車)

### 高速バス利用

東京駅八重洲南口からつくばセンター行きの高速バスで約1時間、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分(「筑波大学病院入口」または「追越学生宿舎前」で下車)

### 航空機利用

- 成田空港: 空港→「つくばセンター」行バス(約100分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バス(約10分)
- 羽田空港: 空港→「つくばセンター」行バス(約120分)・つくばセンターから「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バス(約10分)

## 看護科学学位 プログラム



B … 筑波大循環バス停留所  
B … 高速バス停留所

### 電車



### 高速バス



### 自動車



## お問い合わせ

### 人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学事務室

電話・ファックス 029-853-3403 / kanngojimu@md.tsukuba.ac.jp /

<https://www.md.tsukuba.ac.jp/kango-kagaku/>